

利便かつ導入コスト抑えた屋外型

コフロック

コフロックは導入時コスト低減ニーズに対応した屋外型ガス発生装置「GENEーBASE」シリーズで攻勢をかけていく。コンプレッサを内蔵した一体型のガス発生装置で、窒素、酸素、クリーン



「GENEーBASE」シリーズ

ドライエア（CDA）の3機種を用意、用途に合わせ純度95%から5N（99・999%）の型式を揃える。建屋や排気ダクトなど不要で、ダストや油煙等が少ない空きスペースであれば場所を選ばず、簡単に設置できる。

同社は1949年創業の流量計メーカーで、フローメータや制御バルブなど流体制御機器を扱っており、その一環として90年代からガス発生装置に参入している。窒素ガスではハンダ付け工程や食品、レーザー加工など、酸素ガスでは陸上養殖などさまざまな用途で採用されている。現在、小型機から大型機まで年間で400台以上の出荷実績がある。また東京、

設置容易、5Nの高純度も

京都、福岡にメンテナンス拠点を置き、アフターサービスも万全を期している。

GENEーBASEシリーズは2018年に投入した。利便性や導入時コスト優位性に加え、低騒音、屋外環境下での運転が可能で、余剰の圧縮空気を別の用途で利用できる点も特徴。これまでに累計150台が採用され、ユーザーは大学や公的研究機関など、企業以外にも広がっている。最近では電池材料製造工程で低露点環境を目的としてCDA発生装置に着目、採用されているほか、リチウムイオン電池のリサイクルの工程で窒素ガス発生装置のニーズが高まっているという。

同社では屋内モデルやコンプレッサを搭載しない原料空気供給型モデルなども用意。ユーザーのニーズに合わせて提案していく。